



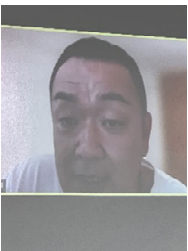
2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ

宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 95 回例会 2022 年 9 月 13 日

●例会場 宮崎大学附属図書館 3 階「hidamari」
会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

■会長の時間 薬王寺文宏 会長



本日はコロナに感染してしまったため、ZOOM での出会で失礼させていただきます。
1 日に次男がコロナウイルスに感染して待機生活に入りましたが、1 日に妻、長男が感染、11 日に私が感染と、待機期間が明ける直前に感染していくループにはまり、現在で 19 日連休が確定しています。20 日に出勤するときに自分の席が残っているか、すごく心配しています。

そういう中ですが、本日は今年度初の新入会員さんをお迎えしての入会式があります。どうしても現地で授与式を行いたいと思っていましたが、そういう事情で出向けないことをお許し願いたいと思います。大いに歓迎いたしますので、この宮崎アカデミーロータリークラブでご活躍いただけたらと思います。

さて話は代わりますが、コロナ感染を機会に、感染症の歴史を紐解いてみたいと思います。

今回の新型コロナウイルス感染症が世界規模でまん延する以前にも、何度も疫病が流行しています。14 世紀～17 世紀にはヨーロッパ・アジアでペストが流行、16 世紀新大陸アステカ・インカ帝国滅亡の遠因となった天然痘、19 世紀大英帝国のインド支配を契機に世界的に拡大したコレラ、20 世紀のスペイン風邪、21 世紀の新型インフルエンザなど、これまでに幾度となくパンデミックに見舞われていますが、その度に災禍を乗り越え、現在の繁栄に繋げてきました。

ヨーロッパがペストに見舞われている中、1642 年にイギリスでアイザック・ニュートンが生まれました。ニュートンはケンブリッジ大学に進学しますが、大学講師の手伝いをする事で授業料が免除されるサイザーという立場だったため、学業以外にも様々な雑用があり自分の研究に十分な時間を費やせなかったそうです。しかしロンドンでペストが大流行し、大学は 18 か月間休校に追い込まれました。その間ニュートンは故郷に避難したそうですが、当時は現在のようにオンラインによる遠隔講義などないため、大学の業務に追われることなく自身の研究に没頭できる時間を得ることができたそうです。

その期間にニュートンの三大業績である「万有引力の法則と力学理論」、「流率法」、「光学理論」の着想を得ることとなりました。わずか 1 年半の期間にニュートンの主要な業績の発見がなされていることから、この期間のことは“創造的休暇”と呼ばれているそうです。

新型コロナウイルスが感染症が流行したこの約 1 年間で、私たちは失った時間もたくさんあると思いますが、この期間に得られた知識もたくさんあると思います。皆さんも目の前に時間を有意義に使い、何かを身に付けていただけたらと思います。

■幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。

本日の幹事報告は 7 点ございます。

- 1 ガバナーエレクト支援へのお礼
池ノ上ガバナーエレクト事務所への支援金についてお礼のご連絡が来ておりますので、ご報告いたします。

2 青森県大雨災害被災地支援

青森県内では、8月3日からの大雨によって、河川の氾濫による冠水被害や土砂崩れによる大きな被害が生じております。第2730地区では、義援金を募り、被災地支援に協力することとなりました。ご協力の程よろしくお願いいたします。

3 俳句コンテスト

「ロータリーの友」創刊70周年特別企画俳句コンテストの作品を募集しております。募集期間は2022年9月1日～2023年2月28日です。ご応募は一人1回で、3句までとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。

4 夜間例会（観月会）開催のご案内

9月27日（火）19時、ホテルマリックスにおいて、夜間例会を開催いたします。また、同日18時30分から第2回理事会・第2回スタッフ会議を開催いたします。ご参加をお願いいたします。

5 おとも de メークアップ第2弾

おとも de メークアップ第2弾は「佐土原ロータリークラブ」です。日時は2022年9月21日（水）12時～13時30分、場所はシーガイアコンベンションセンターです。よろしくお願いいたします。

6 国際ロータリー為替レートについて

2022年7月のロータリーレートは、1ドル=136円です。寄付は、日本事務局に着金した月のRIレートが適用されます。月末にお振込みされる方はご注意ください。よろしくお願いいたします。

7 寄附について

2022年8月23日の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が1,583円、米山奨学金が1,866円でした。引き続きよろしくお願いいたします。

■ 入会式 樋口徳親会員



皆様こんにちは

この度、宮崎アカデミーロータリークラブに入会させていただきました樋口徳親と申します。

出身は福岡県で1963年生まれです。

30年程マンションのデベロッパーに勤務した後、現在(株)ボンズ・ジャパンという不動産会社に勤務しております。

会社には不動産以外に福祉事業を行う関連会社があり、そちらの業務をサポートする機会があることから社会貢献に対する意識が高まっております。

皆様と一緒に宮崎アカデミーロータリークラブの活動を通じて社会貢献をしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 各会員からの報告



明石会長エレクトより

令和4年9月4日13時からZoomにより、地区R財団補助金管理セミナーが開催された。本クラブから村上啓介会員と明石が出席した。このことより、来年度の地区補助金の申請およびグローバル補助金の申請が可能となった。



奉仕プロジェクト委員会より

①プロジェクト3：ニシタチ子ども食堂は、会場満席にて沢山の笑顔が溢れました。次回は、9月24日マチイチでの子ども食堂ブース。10月3日ニシタチ子ども食堂開催。

②プロジェクト1：アフガニスタンコロキウムは、10月30日に。場所も変更で、330ホールで。会員の皆様は10月30日（日）10時から15時半までお時間を空けていただきますよう宜しくお願い致します。間もなくチラシ完成。

③プロジェクト2 医療的ケア児の世界シンポジウム。10月22日（土）間もなくチラシ、ポスター完成。

④地区のロータリー奉仕デーコロキウム ri2730地区&ri2800地区合同開催。鹿児島大学内。12月17日

(土)。zoom&YouTube ライブ配信。

⑤地区の海岸清掃。藤本ガバナー補佐、薬王寺会長の指示待ち中です。



クラブ管理委員会より

出席担当 瀧委員

第 95 回例会出席について、次の通り報告いたします。

- ・開 催 日： 2022 年 9 月 13 日火曜日
- ・会 員 数： 36 名
- ・ホ ー ム 出 席： 21 名
- ・オンライン出席： 3 名
- ・出席者合計： 24 名（暫定出席率 66.67%）



クラブ管理委員会より

プログラム 辻委員長

○次回例会について

2022.9.27（火）19:00～「ホテルマリックス」です。

事前出欠を取っておりますが、出席率がとても悪く、例会成立の規定を下回っています。再度、スケジュール調整をお願いします。

○次々回例会について

2022.10.11（火）12:00～13:00「hidamari」です。

卓話は「宮崎県男女共同参画センター所長 富山様」です。

設営、撤去は第 3 班（新地会員、水光会員、杉山会員、勢井会員、瀧会員）です。担当者の方々は 30 分前に集合してください。

■卓話



「卓話について語るときに、私の語ること」 伊達 紫

「卓話」を担当するのは今回 2 回目である。1 回目の卓話は、例会が始まるまで卓話担当であることを忘れており（いや、正確には誤情報により）、no plan の卓話となってしまった。前代未聞である。しかし、あらゆる引き出しをフル稼働させて持ち時間を乗り切ったということ言えば、完全燃焼の卓話だったとも言える。すごいぞ、わたし。

さて、今回はと言うと、度重なる日程変更があったものの、「9 月 13 日 第 95 回例会の卓話担当」を取り違えることなく、スライドまで準備できた。格段の進歩である。よしよし。題名も「卓話について語るときに、私の語ること」、村上春樹のエッセイの題名をパクったとはいえ、粋な題名だ。ところで、中身は何だ？本、映画、旅、音楽、スポーツ、ファッション（これ、結構いいかも）、うまいもの……、いろいろ考えたものの、ここ 10 数年取り組んできた「ジェンダー平等」をテーマに、私は語ることにした。

1961 年、三人姉弟の長女として福岡県飯塚市に生まれた私は、「女子は理系、手に職つけて自立せよ」という「ジェンダー不平等」の家訓の中、抗っては跳ね返され、抗っては揉み消され、を繰り返しつつ、それでも入れるものなら入りたかった医学部に入り、なれるものならなりたかった医者になった。さらに研究者という草鞋も履いてみた。そしてその頃には、あれほど翻弄された「家訓」は、むしろいい思い出と言えるほどまでに昇華されていた。大学入学から数えると 40 年余りの年月が流れた今も、試行錯誤しながら医者をつづけ、研究者を続けているということは、私個人と家訓とのマッチングはかなり良かったのだと思う。

医者と研究者という二足の草鞋にも随分馴染んできたころ、「ジェンダー平等」（当時は「男女共同参画」と言った）を担当せよというミッションが舞い込んだ。「No」という選択肢は用意されていなかったとはいえ、ミッション自体、何のことやらわからないといった有り様だった。今では当たり前のように使っているジェンダーギャップ指数、アンコンシャスバイアス、性別による固定的役割分担意識、育休取得率、管理職における女性比率等々も、ググらないとわからない未知の言語だった。当時の学長からいただいた直接の指示は、「できる女もいれば、できん男もいる、これを何とかしてほしいということだ」というものであ

ったが、「何とかする」とはどうすることなのかは、とうとう聞くことができなかつた。ただ、「できん男もいる」よねー、と痛く共感してしまったのも事実（今思えば、自ら決定権を持ち仕事をしている女性が周りにいなかったからだと思います）。そこから今日に至るまで、15年近く「ジェンダー平等」に関わっている。

日本のジェンダーギャップ指数は、先進国最下位を独走中である。この先どこまで記録を伸ばすのか、楽しみだ、いや、心配だ。いろんな努力義務（法律のことです）を作って旗を振っておられるが、政治分野の実質0点が足を引っ張っているのですよ…。オールド・ボーイズ・コネクションをクォータ制にでも変えてみると景色が変わると思いませんか？

話は初っ端に戻ります。第1回目の卓話のあと精魂尽き果てた私は、卓話の内容を文書で提出することを知りませんでした。入稿締め切り数時間前に電話がかかってきた時には、焦ったー、そして、書いたー。今回はそれを知っておりながら、実はすっかり忘れておりました。そういうわけで、しゃべった内容と書いた内容とが必ずしも一致しない場合があること、ご容赦願いたい。